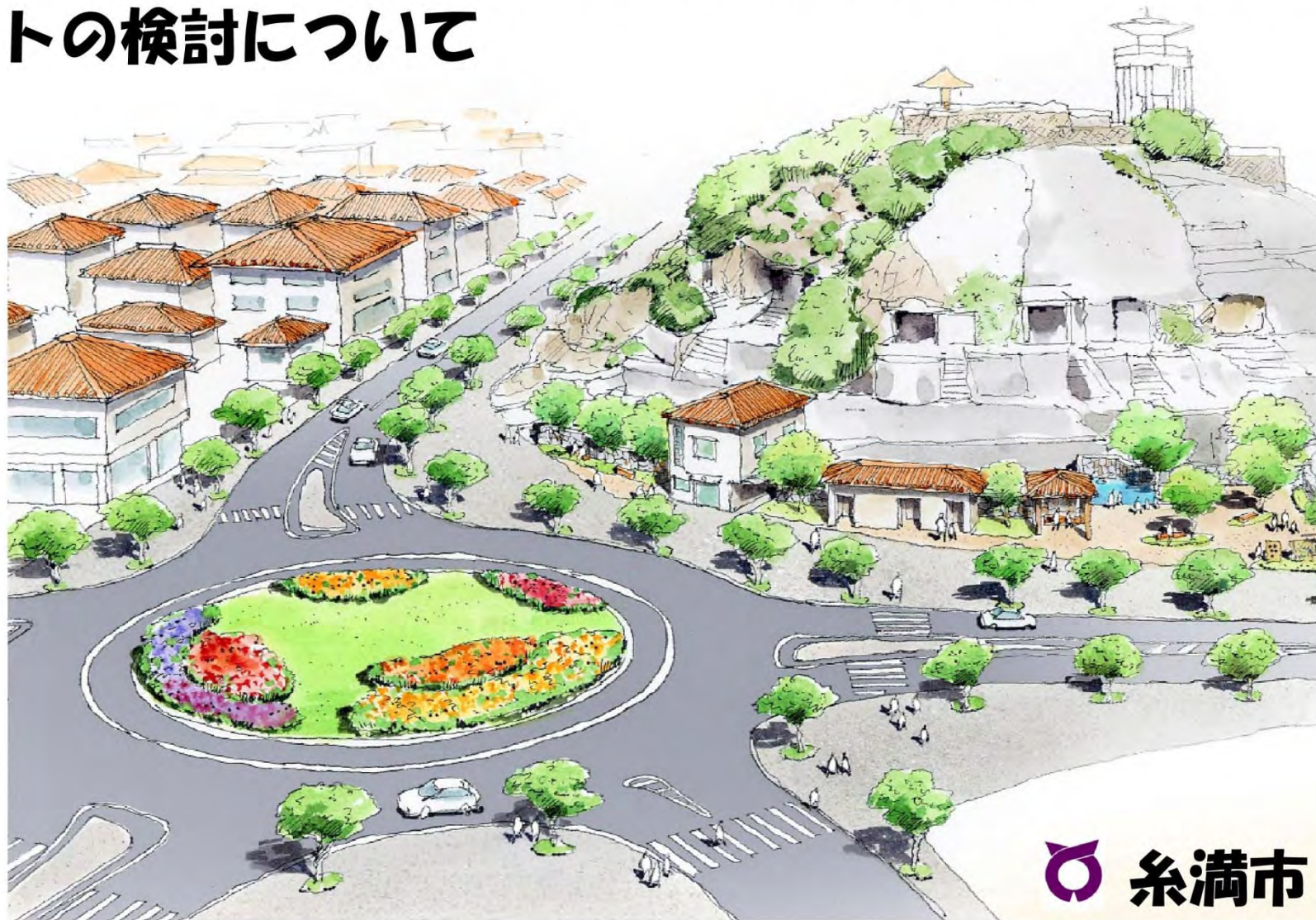


# 糸満市の糸満ロータリーにおけるラウンドアバウトの検討について



# 糸満ロータリーのある場所

糸満市は沖縄本島の最南端で、那覇市から南へ12Kmのところに位置し、市土面積が46.64平方キロメートルの比較的平坦な地形のまちです。

糸満は、沖縄のなかでも独特の時間の流れがあります。旧正月を祝い、旧暦の5月4日は、糸満ハーレー行事で海の恵みに感謝し、航海安全と豊漁を祝い、同じ8月15日は豊年を祈願し大綱を引きます。

月の満ち欠けとともに生きる糸満には古き良き風習が脈々と受け継がれています。

糸満ロータリーは糸満中心市街地の真ん中に位置し、戦後間もなく米軍によって築かれ、市民と共に前後の時を過ごしてきました。沖縄本島で唯一残ったロータリー交差点を核とした歴史ある風景のまちづくりを目指しています。



糸満市の地場産品推奨キャラの「いとちゃん」です。糸満ロータリーを宜しくね！

# 糸満市の名所

■ 沖縄平和祈念公園  
世界恒久平和を祈念と、平和情報発信の地



沖縄戦跡国立公園内



■ 大度海岸（ジョン万次郎）  
ジョン万次郎（本名：中濱萬次郎）  
上陸の地

■ 美々ビーチ  
ビーチバレー、ビーチサッカー、BBQが楽しめ、飛行機の離発着が眺められる。



糸満市街地内



■ 白銀堂（伝統行事祭祀の拝所）

# 糸満ロータリーの変遷



1950年頃 八角形の中央島



1978年 7/30 (ナナサンマル) の変更前



2015年10月30日現在

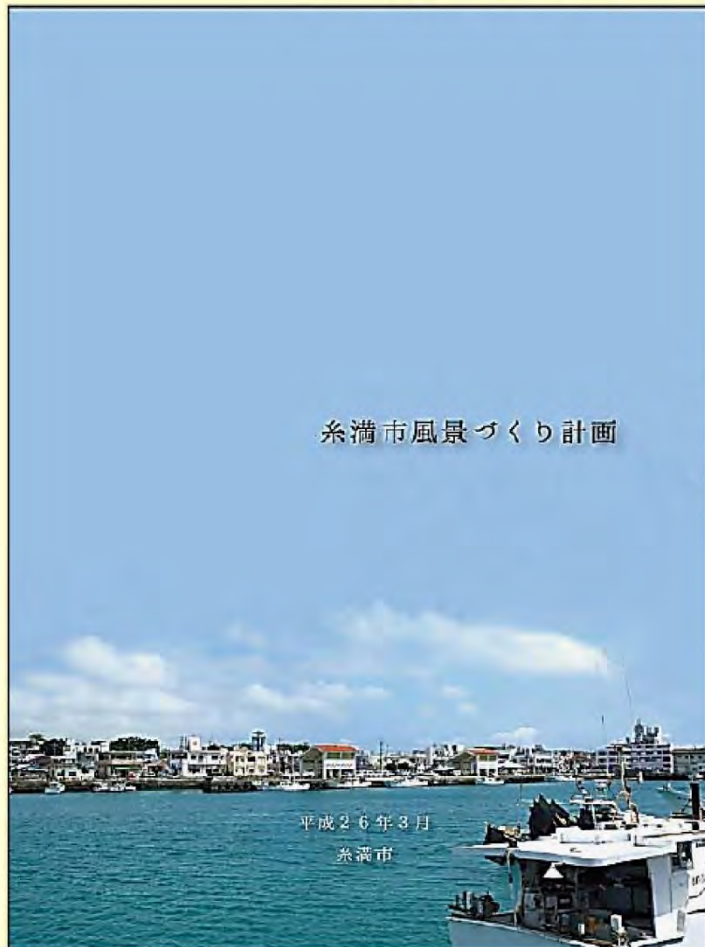


2015年3月 ラウンドアバウト切替え前

# 糸満ロータリーを結ぶ主要幹線道路



# ラウンドアバウト導入を目指す背景



【糸満市風景づくり条例】

平成二十六年七月一日 施行



糸満ロータリーのすぐそばでは、いとまん海人（漁師）と、いとまんアンマー（漁師まちの女）と呼ばれ、漁業中心の生業で栄えた糸満の漁師町で、その当時、漁師達は裕福さの象徴として赤瓦屋根の家を挙って建て、この辺り一面は赤瓦で埋め尽くされた風景が存在しました。

そんな貴重な歴史を守り、つくり、育てる「海とのつながりと賑わいの風格のまち糸満」を目指し、平成26年3月、景観計画を策定するなか、**県内で唯一残った糸満ロータリーを中心としたまちづくりを方針の一つとして掲げました。**したがって、**糸満市民にとっての糸満ロータリーは単なる道づくりではなく、まちの顔として象徴される存在でありたいのです。**

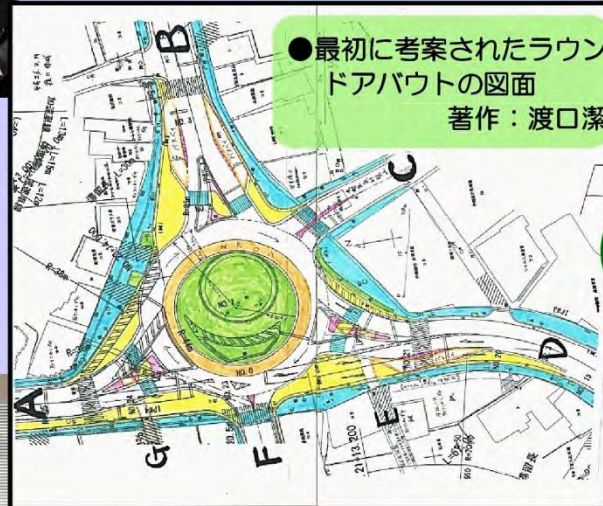
# 社会実験実施検討協議会の発足



H26.7.29  
記念すべき第1回目の社会実験協議会の風景。  
初回の初顔合わせで皆さん少し緊張ギミでした。



国の気配りで糸満市役所で開催された名大中村教授の特別講演会。真夏の節、エアコンの調子が悪くサウナ状態のなか、制限時間いっぱいりの講演お疲れ様でした。



協議会関係者で適宜開催の実務者レベルの「設計協議会」本市RABアドバイザーの渡口氏(中央)は、さすがに熱の入りが違います！

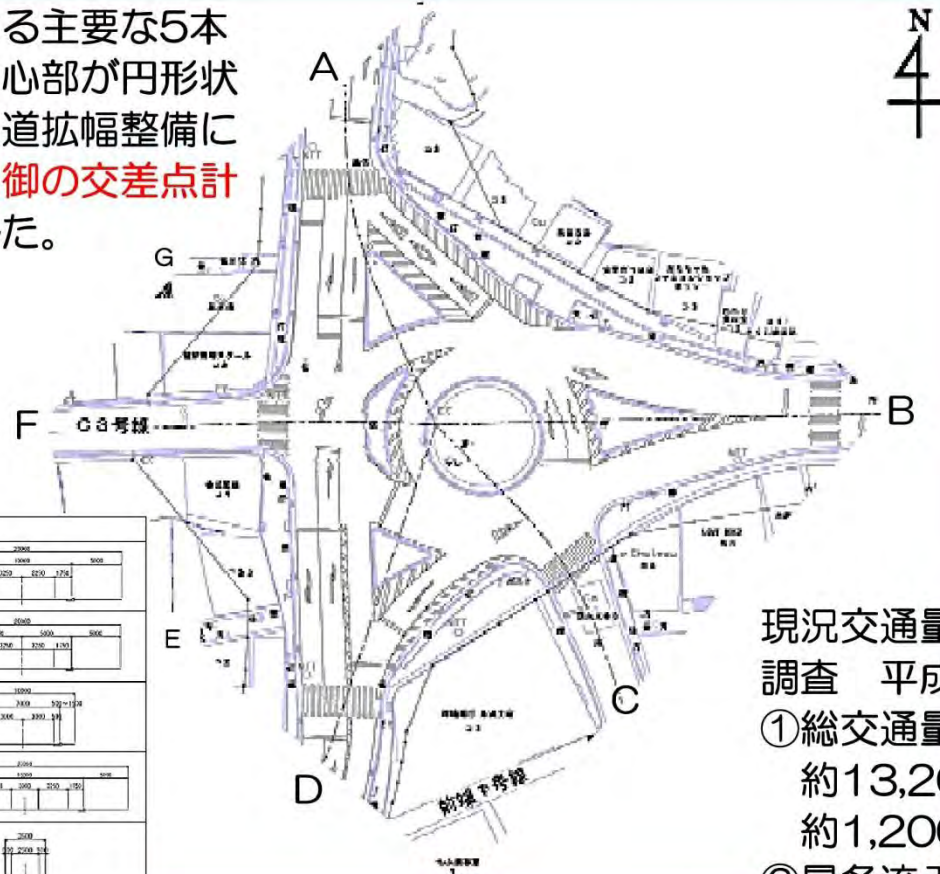


名古屋大学の中村先生、糸満ロータリーを視察。8月の灼熱のなか、熱心且つ冷静に糸満ロータリーを分析していました。



# 糸満ロータリーラウンドアバウト計画の概要①

現況は、信号制御による主要な5本の道路が交差した、中心部が円形状の交差点で、将来、県道拡幅整備において、通常の**信号制御の交差点計画**が予定されていました。



## ●各枝の幅員構成

| 枝番号・路線名           | 幅員構成                        |
|-------------------|-----------------------------|
| A枝<br>一般国道331号    | 都市計画幅員<br>(W=20.00m)<br>    |
| B枝<br>県道77号糸満与那原線 | 都市計画幅員・現況<br>(W=20.00m)<br> |
| C枝<br>市道B8号線      | 現況 (W=10.00m)<br>           |
| D枝<br>一般国道331号    | 都市計画幅員<br>(W=23.00m)<br>    |
| E枝<br>市C2号線       | 現況 (W=3.50m)<br>            |
| F枝<br>市道C3号線      | 現況 (W=8.75m)<br>            |
| G枝<br>市道町端1号線     | 現況 (W=2.25m)<br>            |

- 現況交通量 (平日)  
調査 平成27年3月
- ①総交通量 (ABCDEF)  
約13,200台/12h  
約1,200台/h (ピーク)
  - ②最多流入量方向 (A枝)  
約4,500台/12h  
約390台/h (ピーク)



# 糸満ロータリーラウンドアバウト計画の概要②

## ■設計対象車輈

- ①主要設計車輈 小型自動車等
- ②副設計車輈 普通自動車
- ③車種別 普通乗用車、トラック・バス等、セミトレーラ連結車

## ■通行方法

- ①小型自動車 環道部を通行。
- ②普通自動車 環道部に加え、エプロン部を通行。
- ③セミトレーラ連結車 環道部に加え、エプロン部及び路肩を通行。

※以上を左記に示す軌道シュミレーションし、環道の幅員の検討を行う。

| 普通自動車   | 小型自動車等                                       |
|---|--|
|   |  |
| 車両全長 L=12.0m<br>車両全幅 W=2.5m<br>最小回転半径 R=12.0m | 車両全長 L=6.0m<br>車両全幅 W=2.0m<br>最小回転半径 R=7.0m  |
| セミトレーラ連結車                                     | 路線バス   |
|   |  |
| 車両全長 L=16.5m<br>車両全幅 W=2.5m<br>最小回転半径 R=12.0m | 車両全長 L=11.0m<br>車両全幅 W=2.5m<br>最小回転半径 R=9.0m |

## ■ラウンドアバウトの幾何構造

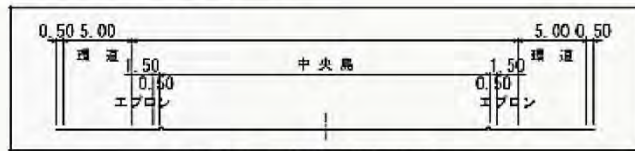


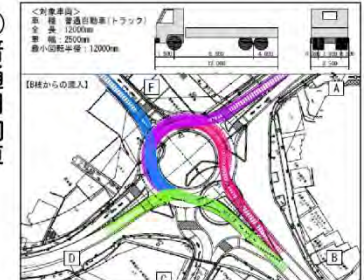
図-3.3 環道部の幅員構成

- ① 環道外径  
ラウンドアバウトの最小外径となる  $R=27.0\text{m}$  以上で、各枝線へ無理なく流出入可能な最少の外径とする。
- ② 環道中心  
用地をコントロールした中で、平面交差点中心に近傍する点を環道中心とする。
- ③ 環道幅員、エプロン幅員  
環道幅員  $5.0\text{m}$ 、エプロン幅  $1.5\text{m}$  とする。
- ④ 中央島  
エプロン幅の内側に  $0.5\text{m}$  の施設帯幅を確保する。
- ⑤ 隅切り部  
隅切り部の形状は、走行軌跡から決定する。

### ① 小型自動車



### ② 普通自動車



### ③ セミトレーラ連結車

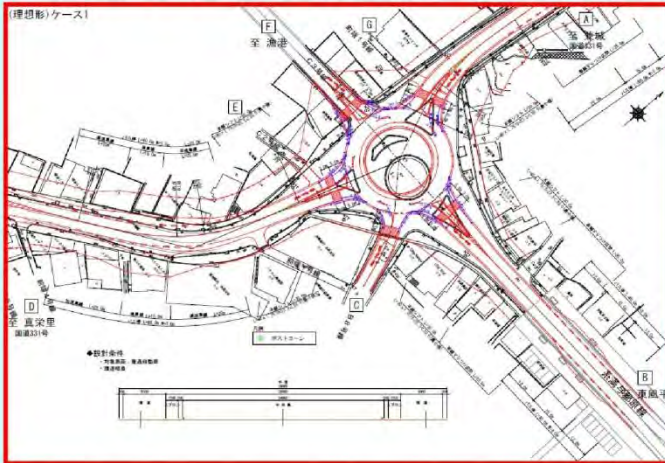


# 糸満ロータリーラウンドアバウト計画の概要③

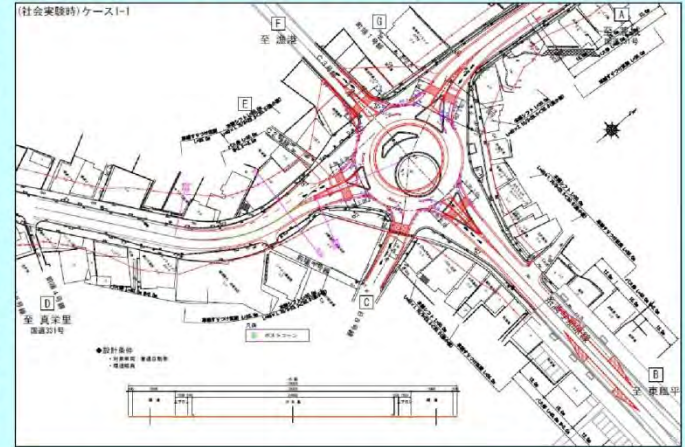
●本番を見据え、理想的な形状で社会実験を検討！

都市計画ラインで用地取得した範囲で、環道中心を、国道331号と県道糸満与那原線の接続角度が、 $120^\circ$  と  $90^\circ$  の2つのケースを理想形として平面設計を比較検討。

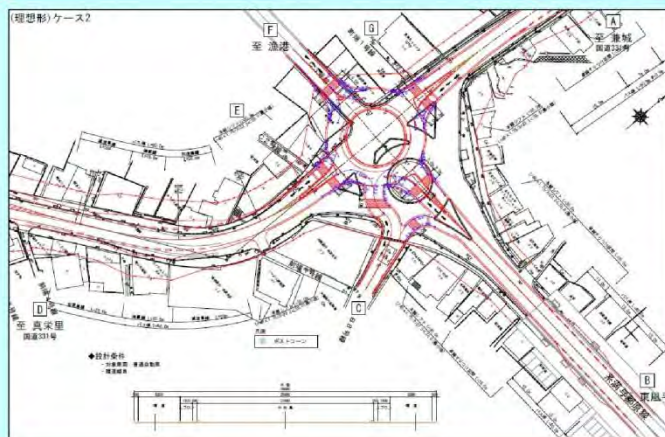
更に、**現道の敷地内で配置可能で、且つ現況の歩道幅員を満したケース1-2を選定。**



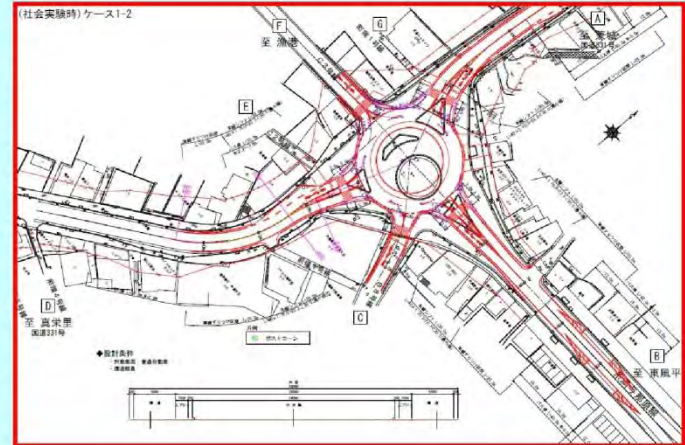
全路線が環道一つの利用形態



F枝流出側で歩道幅員の確保不可



B枝の一部で左折導流路利用の形態



全路線で現況歩道の幅員を確保

# 糸満ロータリーラウンドアバウト計画の概要④

## ■社会実験のかたち



【標準断面】

## ■社会実験の実施事項

- ①社会実験工事期間 H27. 8~10
  - ②社会実験実施期間 H27.10~H28. 3
    - 1) 事前調査 (H27. 3.22~23 2日)
    - 2) 事後調査 (H27. 11.1~15 平・休 各1日)
- ※調査結果を基に、実験による効果と検証を行う。



## ③社会実験項目

- 1) ビデオ撮影調査 2日 7時~19時 12h  
交差点周辺の9箇所に設置し交通状況を記録する。
- 2) 走行調査 1~2日 7時~19時 12h  
一般車両にドライブレコーダー搭載、規定の走行方向で前方映像の撮影と同時に、1秒毎の緯度・経度データより走行速度を算定する。
- 3) 滞留長・渋滞長調査 2日 7時~19時 12h  
調査方向に対し調査員が5分毎の滞留と渋滞長を計測。流入部を先頭に上流側までの交差点等に延伸し滞留・渋滞長の末尾まで計測する。

# 2015年10月3日 糸満ロータリーラウンドアバウト社会実験「 通行切替日」決定！！

市民が、緊張の面持ちで迎えたこの日の一コマ。  
早朝の6時にも関わらず、関心ある多くの市民の皆さんが糸満ロータリーに駆けつけて下さいました。  
上原糸満市長もご満悦の笑みでした。



”感謝”そして、ご清聴ありがとうございました。